

今年は耕起が早かったほ場では乾土効果が期待されますが、適正な基肥、栽植密度で初期生育を確保しましょう。気象変動に強い米づくりは「**適期田植え・適正栽植密度（70 株/坪）**」と「**田植え後のきめ細やかな水管理**」でスタート！

適正な株数で適期内に田植えを行い、初期生育を確保して良いスタートを切りましょう。  
なお、今年は高温により苗の生育が進み、徒長苗となっています。老化苗になる前に、早めに田んぼへ移しましょう。

## 品種に応じた基肥量がポイント

～ 品種の特性にあった基肥量は、良食味米づくりに欠かせません ～  
品種別の基肥量は以下のとおりです。

品種名	窒素成分量 (kg/10a)	品種名	窒素成分量 (kg/10a)
はえぬき	5～6	ひとめぼれ	4～5
コシヒカリ	3～4	あきたこまち	5～6
つや姫	3～4	ヒメノモチ	5～6
	地力の低い所では1kgを上限に増量	酒米	4

## 田植え時のポイント

◎田植えの適期は 5 月 15 日～20 日頃です。

【つや姫の田植えは 20 日まで】

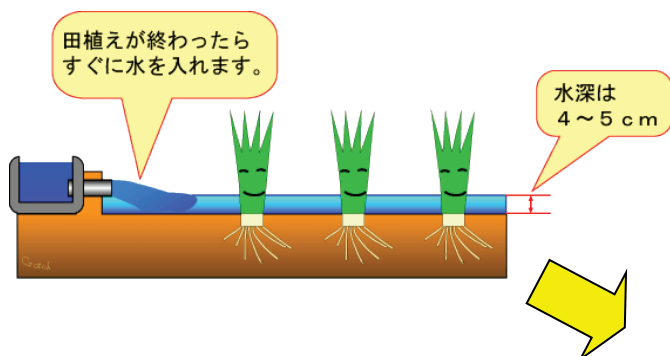
低温や強風の日の田植えは植え傷みや活着不良となるので、出来る限り天候の良い日を選んで行いましょう。1 か月予報によると 5 月 16 日以降は平年並みの気温の予報になっています。また、**苗の生育が進んでいます。老化苗になる前に適期内に田植えを終えましょう。**

◎栽植密度は 70 株/坪、株当たり 4～5 本を目安とします。

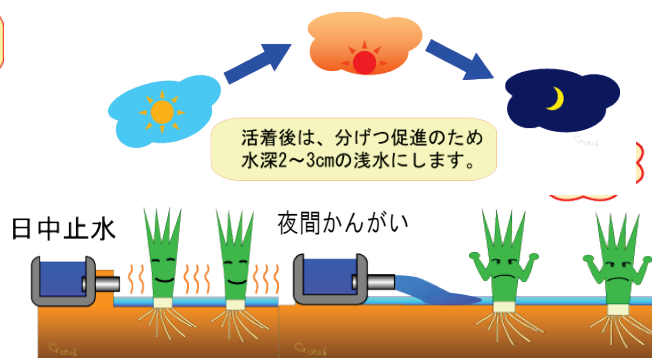
◎植付け深は 3cm 程度を基本とします。深植えは分けつの発生を抑制するので、避けましょう。

## 初期の水管理

◎田植え直後の活着期には水深 4～5 cm 程度で活着を促進させます。



◎活着後は、水深 2～3 cm の浅水管理とし、日中止水・夜間かんがいの保温的管理を行い、分けつの発生を促進させます。



## 【東北地方 1 か月予報】

5月9日～6月8日

<気温の予報>

5/9～5/15：平年並の確立40%、高い確率40%

5/16～5/22：平年並の確率50%

5/23～6/5：平年並の確率 40%

## 異常還元（ワキ）対策

分げつ期に湛水状態で高温が続くと異常還元（ワキ）が発生し、分げつが遅れる原因となります。ワキが発生した場合には、水交換や一時的な落水管理で対応し、根の活力維持に努めましょう。

除草剤の散布後にワキが確認された場合でも、2日程度の落水なら除草効果に大きな影響はありません。

（除草剤散布後7日間は必ず止水）

## いもち病対策

◎いもち病対策は予防を徹底することが重要です。箱施用剤や粒剤で必ず予防対策を行いましょう。取置き苗は葉いもちの伝染源となるので、速やかに処分しましょう。

葉いもちを抑えることが穂いもちを抑える1番の対策です。

## 除草剤の適正使用

◎雑草は代かき直後から発芽してきます。ノビエ葉数などを確認して、使用基準に基づき遅れないよう散布しましょう。

◎散布は3~5cm程度の湛水状態で行い、**散布後7日間は止水管理を徹底します。**

除草剤の処理層を作るため、畦畔からの漏水を防止し、散布後7日間は田面が露出しないように管理しましょう。

◎粒剤を使用する場合には、風の向き、強弱などを考慮して、散布ムラのないように注意します。

◎使用基準を必ず守り、周辺への飛散、水路への流出には特に注意を払いましょう。

◎近年、オモダカやクログワイなど多年生雑草が残るほ場が多くなっています。

これらの雑草は発生時期が長期にわたるため、一発処理剤のみでは効果が不十分な場合があります。また、塊茎の寿命が長いため、一度増殖してしまうと、複数年に渡って防除が必要となります。

雑草の種類に応じて効果的な剤を選び、体系処理により計画的な防除を行いましょう。

◎農薬を使用する際には使用基準を再確認し、正しく使いましょう！

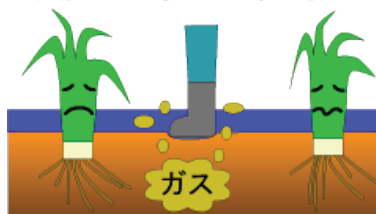
農薬を使った際にはその都度記帳を行いましょう。

やまがたアグリネット「あぐりん」アクセス！<http://agrin.jp//>

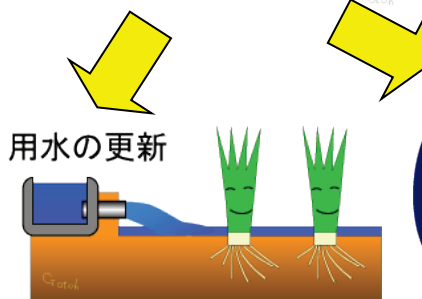
米づくり情報のような技術対策の他、気象情報、病害虫等の情報がいち早く得られます。

◎農作業事故防止に取り組みましょう。①複数で作業をする ②機械作業を中断するときはエンジンを停止する ③落下して危険なものは高所に置かない ④作業中はヘルメットをかぶる ⑤走行中路肩に寄り過ぎない ⑤体調管理をする

## 気泡が発生する



根の伸長阻害で  
養分吸収ダウン↓  
⇒茎数不足の原因に！



オモダカ



クログワイ